

平成25年度
第4回木更津市史編集委員会

日時 平成26年 3月26日(水)
午後2時00分から
場所 市役所6階 委員会室

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 報告

報告1 第3回木更津市史編集委員会議事内容

報告2 調査・研究の進捗状況(自然部門、歴史部門)

5. 議事

議題1 『図説 木更津のあゆみ』の活用

議題2 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定

(1) 市史編集組織(案)について

(2) 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)について

6. その他

7. 閉会

報告1 平成25年度第3回木更津市史編集委員会議事内容

開催日時 平成26年1月30日(木)午後2時00分から午後4時00分

開催場所 市役所6階 会議室

議題内容

報告1 第2回木更津市史編集委員会議事内容

報告2 調査・研究の進捗状況(自然部門、歴史部門)

議題1 『図説 木更津のあゆみ』の活用

議題2 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定

(1) 主な意見内容

- ・『図説 木更津のあゆみ』は有料頒布。Web版で無料公開するのか要検討。(島立委員)
- ・利用者はPDF版が使いやすく、値段(製作に要する)も安い。著作権の取り直す手間は大変。資料のPDF化の作業は事務局側の仕事も増える。(島立委員)
- ・冊子とWeb公開の反響は違うので、慎重に扱う。貴重動物は、生息地がピンポイントでわからないように配慮。貴重な度合いが年々変わっている。(成田副委員長)
- ・冊子は完売後も増刷されれば手に入る。Web版は冊子の内容を絞りでダイジェスト版でまとめ、間違いを直しながらするのが現実的。Web版の写真をコピーすると、『図説 木更津のあゆみ』といった文字が表示されるような処理を施せばコピー制限もはかれる。資料掲載量で予算変わるので、構成を考えながら進める。(實形委員)
- ・Web版『図説 木更津のあゆみ』を作成すると、本編との二方向で進めることになる。本編を冊子とWeb上に公開することを含めて著作権者に承諾を得たほうがよい。(石井委員)
- ・理想はHTML方式で公開し、冊子の『図説 木更津のあゆみ』は別に販売する。費用や時間等の負担がかかるので非現実的。『図説 木更津のあゆみ』のPDF版の予算措置も必要。Web公開も維持費かかるので並行して行うのも非現実的。本編作りながら一部の頁をWeb

上に公開するのがよい。本編刊行するとき、『図説 木更津のあゆみ』の一部を公開すれば、著作権者の承諾も一緒に行える。(島立委員)

・新たな『木更津市史』自然編の基本構想及び編集方針は、将来に伝えたい木更津の特徴ある自然の現在の状況を記録。民俗と重なる部分があったほうがよい。紙ベースは小学校高学年から中学生程度が理解できる簡潔な文章で記載し、写真や図版多用。デジタル化を積極的に。専門的なものはCDに掲載。調査研究・執筆員は11名、気候海草関係、海の動物、魚類、甲殻類の担当が必要。ボランティアを数名から10名位。(成田副委員長)

・新たな『木更津市史』の用語及び文章表現は、『図説 木更津のあゆみ』と方針を同じように読みやすい内容で、文体は口語体で漢字は原則常用漢字にする。文章表現は平易だが、中身は広範囲になって深くなる。(金子委員長、成田副委員長)

・新たな『木更津市史』は資料編を先に作る。通史編の基になる資料編の活字は、専門性のあるもので研究者向けになる。通史編はフルカラーで、写真を多用しわかりやすい通史編になる。(實形委員)

・市史編集組織を先に決めてほしい。(成田副委員長)

(2)事務局からの回答

・Web版の公開方法の金額は、事務局の作業期間及び費用は含まれていないが、最低でPDFは100万円、電子書籍は数百万円、HTML方式は1,000万円台。AR(拡張現実機能)機能は一つ30,000円ほど。管理費は2週間単位で5,000円。その他、もろもろの機能を付けるとオプション料金かかる。期間は最低でPDF1ヶ月、電子書籍2~3ヶ月、HTML方式半年かかる。

・Web版で公開すれば、コピー制限することは不可能。Web版を作成は再度著作権者に利用の承諾を得る必要がある。Web公開は承諾得られない場合もある。データ解像度落とす処理はできる。公開利用の規定・免責事項を表示し取り扱い注意促す。

・Web公開後の管理運営の費用は3方式は基本的に同じ金額。新規サーバー使用は、レンタル料でサーバー保守年間5,000円、ドメイン獲得年間1,800円が最低限。

・市史発行は、市の魅力を市内外に伝えることが大前提。Web公開で、市史を見る機会増えるのはありがたいので推進したい。公開することで貴重な資料を守る意識を育むことができる一方、失われてしまう危険性もはらんでいるので、慎重に取り扱わなければならない。『図説 木更津のあゆみ』の発行部数は限られているが、市民への周知は図られているし、更なる活用を期待。

・平成26年度市史編集委員会協議内容は、訂正。『木更津市史』基本構想及び基本方針の中に市史編集業務に係る指針を含む。

・『図説 木更津のあゆみ』の基本構想及び編集方針は1年かけた。『図説 木更津のあゆみ』の活用方法、市民の『木更津市史』刊行への気運の醸成がはかられているか評価を出してほしい。市民が求める『木更津市史』と、基本構想をどうするのかを検討。新しい『木更津市史』は、専門家集団で作るのではなく、市民一人一人が編集に参画できるよう議論を。資料収集・調査活動は並行したい。

・『図説 木更津のあゆみ』は6班体制。既刊『木更津市史』『図説 木更津のあゆみ』の掲載内容で、寺社、建築、絵画等足りない部分を踏まえた編集組織作りと部会員の推薦を。

※詳細は平成25年度第3回木更津市史編集委員会会議録を参照

(3) 追加 『木更津市史』(旧版)関係資料の保管状況

昭和47年度刊行分の直筆原稿、編集日誌、会議録、掲載写真(複製で焼付のみ。未掲載含む)、印刷原板を保管。(文書保管箱6箱分)

報告2 調査・研究の進捗状況(自然部門、歴史部門)

自然部門

1 調査経過

日付	調査場所	調査内容
2/26	泉川、中六、真里谷、茅野七曲、山本七曲、矢那、 地獄沢、上烏田	動物

2 今後の調査予定

3月下旬:1日 主に両生類卵塊分布予備調査

歴史部門

調査経過

日付	調査場所	調査内容
2/5	図書館	資料目録作成
2/7	図書館	資料目録作成
2/11	金のすず	現状記録、仮目録作成
2/12	図書館	資料目録作成、封筒書き
2/19	図書館	資料目録作成、封筒書き
2/21	図書館	資料目録作成、封筒書き
2/24	金のすず	現状記録、仮目録作成

請西藩・林家文書整理作業

20140326
實形

①平成25年12月22日(日)

現状記録→A-1～86の番号付与と封筒詰め作業。
仮目録の作成→A-1～5、11～32・5、41・42済み
林家の家格再興関係や田藩士の土族復讐関係が特徴的な史料である。
特別展「幕末の木更津」見学の来館と同時に、林黨子氏・忠輝氏らの整理作業風景の見学があり。

②平成26年1月6日(月)

現状記録→単位B・C・Dの番号付与と封筒詰め作業。
B-1～22(止)、C-1(止)、D-1～4(止)
特別展「幕末の木更津」の展示で使用したものが中心である。
林忠英肖像や林家系譜、敵見関係などが特徴的な史料である。
仮目録の作成→A-6-1～A-10、A-32・6～A-40、A-43～86(止)済み

③平成26年1月21日(火)

仮目録の作成
B-1～22(止)、C-1(止)、D-1～4(止)済み
特別展「幕末の木更津」の展示で使用したものが中心である。
林忠英肖像や林家系譜、敵見関係などが特徴的な史料である。
※途中、長樂寺にて万里小路島関係で重田家の位牌等の調査を実施した。

④平成26年1月27日(月)

現状記録(取り上げ記録、番号付与と封筒詰め作業)
G-1～72(止)済み
F-1～26途中
1月25日(土)に追加借入済みである。
林忠英肖像関係、林忠英写真(明治24年)が特徴的な史料である。

⑤平成26年2月11日(月)

現状記録(取り上げ記録、番号付与と封筒詰め作業)
F-27～31、H-1～15・18、K-1～30、M-1～27済み
仮目録の作成
G-1～72済み
1月25日(土)に追加借入済みである。
単位Kに林忠英直筆の書があり！
また、旧請西藩士の土族復讐関係書類が特徴的な史料群である。

⑥平成26年2月24日(月)

現状記録(取り上げ記録、番号付与と封筒詰め作業)
F-32～36、I-1～49、J-1～64済み
仮目録の作成
G-73～G-111済み
1月25日(土)に追加借入済みである。
単位Iは和歌帳一括で、有名な林忠崇の辞世「降伏特刑」があり！
また、単位Jは、林忠弘・忠一関係の書類が中心で、位記・辞令・卒業証書のほか、林忠一も記載された貴族院議員氏名表などが特徴的な史料群である。

⑦平成26年3月10日(月)

現状記録(取り上げ記録、番号付与と封筒詰め作業)
F-37～38、L-1～27・3、N-1～17、P-1～36済み
仮目録の作成
G-12～G-26済み
1月25日(土)に追加借入済みである。
単位L-1が「一遣(忠雄)画譜」、L-27・2が林忠英の変名書である。単位Nは、林忠崇の書画一括である。
単位Pは、林忠崇と娘のミヅ関係の写真一括である。

⑧平成26年3月17日(月)

現状記録(取り上げ記録、番号付与と封筒詰め作業)
単位O-1～24、Q-1～3、R-1、S-1～23済み
仮目録の作成
G-27～G-35、G-37～64・3済み
今回で現状記録がすべて完了した。
単位Oは、林忠崇の書画一括である。単位R-1は、林忠崇94歳の肖像画である。
単位S-1は、林忠弘の勇爵位の授与状である。

請西藩・林家文書 現状記録

単位A-1～86㊦	109点
単位B-1～22㊦	24点
単位C-1㊦	1点
単位D-1～4㊦	4点
単位E ※中身なし!	0点 ※家紋入りカバン
単位F-1～38㊦	77点 ※No.1～1～5
単位G-1～72㊦	113点 ※No.2
単位H-1～14～18㊦	48点 ※No.3
単位I-1～49㊦	54点 ※No.4
単位J-1～64㊦	74点 ※No.5
単位K-1～30㊦	32点 ※No.6
単位L-1～27～3㊦	30点 ※No.7
単位M-1～27㊦	33点 ※No.8
単位N-1～17㊦	18点 ※No.9
単位O-1～24㊦	26点
単位P-1～36㊦	36点 ※No.2-2
単位Q-1～3㊦	3点
単位R-1㊦	1点
単位S-1～2-3㊦	4点
合計687点	

請西藩・林家文書 仮目録の作成

単位A-1～86㊦	109点	済み
単位B-1～22㊦	24点	済み
単位C-1㊦	1点	済み
単位D-1～4㊦	4点	済み
単位E ※中身なし		
単位G-1～35、37～64-3途中(113点)		

議題1『図説 木更津のあゆみ』の活用(案)

目的:『図説 木更津のあゆみ』や、新たな『木更津市史』の編集で実施した調査・研究の成果を市民に対して情報発信し、歴史・文化・芸術にふれあえる機会の提供等を通じて、市民生活にうるおいをもたらすとともに、郷土愛の醸成を図り、木更津市基本構想(案)の実現をめざす。

効果:市制施行70周年記念『図説 木更津のあゆみ』や新たな『木更津市史』の活用をはかるとともに、市民の郷土木更津の歴史・文化・自然に対する愛着心を育むことができる。またテキストとして『図説 木更津のあゆみ』を活用することにより、同冊子の普及促進を図ることができる。

実施日:平成26年7月27日(日)または8月23日(土)。

会場:木更津市民会館小ホール

内容:講演会

題名:①自然編 盤洲干潟のいきものたち(仮題)

※干潟の成り立ちや、盤洲干潟の特徴、干潟に住む生き物たちについて、木更津市史編集事業の中で調査した成果を踏まえて発表する。そして、千葉県の中での盤洲干潟の重要性や魅力、守り続けることの大切さを伝える。

依頼者:木更津市史編集委員会副委員長 成田篤彦、千葉県地域生物多様性センター職員ほか(予定)

その他:講演会内容を『木更津市史研究』(仮題)等に掲載し、さらなる情報提供活動の充実をはかる。(※『木更津市史研究』(仮題)は、PDF化したものをWeb版で公開し、印刷費等経費を節減する。講演予定者には、事前にWeb版『木更津市史研究』(仮題)への講演内容・記録等の掲載許可手続きを行う。)

実施日：平成26年9月～11月または平成27年9月～11月(予定)

会場：富来田公民館(予定)

内容：講演会、文化財散策

題名：②中世編 江戸湾をめぐる武田氏－戦国時代の木更津と真里谷武田氏－(仮題)

※講演会と文化財散策の2回実施にする。2014年に開港400年を迎えた木更津港の以前(戦国時代)の様子について、当地を支配していた真里谷武田氏と本拠地の真里谷を中心に、木更津市史編集事業の中で調査した成果を踏まえて発表する。そして、真里谷城、要害城や、真里谷武田氏と深いかかわりのある妙泉寺、真如寺等を散策して、当時の様子を肌で感じることのできる機会を提供する。

依頼者：木更津市史編集委員会委員 池田忍、同委員会委員 川戸貴史、教育部文化課職員
ほか(予定)

その他：講演会内容を『木更津市史研究』(仮題)等に掲載し、さらなる情報提供活動の充実をはかる。(※『木更津市史研究』(仮題)は、PDF化したものをWeb版で公開し、印刷費等経費を節減する。講演予定者には、事前にWeb版『木更津市史研究』(仮題)への講演内容・記録等の掲載許可手続きを行う。)

※平成26年度に実施できない場合は、平成27年度に実施する。

実施日：平成27年7月～10月(予定)

会場：市内公民館

内容：講演会、フィールド散策

題名：③民俗編 木更津フィールドミュージアム(仮題)

※木更津の海・山・川などの自然と人とのかかわりを伝統、風習、生活の中に残る事柄を、木更津市史編集事業の中で調査した成果を踏まえて発表する。また、原風景を留める山間部集落や、小櫃川流域を散策し、木更津フィールドミュージアムの活動を開始するための基礎作りを行う。

依頼者：木更津市史編集委員会委員 島立理子、千葉県地域多様性センター職員、『図説 木更津のあゆみ』前執筆委員ほか(予定)

その他：講演会内容を『木更津市史研究』(仮題)等に掲載し、さらなる情報提供活動の充実をはかる。(※『木更津市史研究』(仮題)は、PDF化したものをWeb版で公開し、印刷費等経費を節減する。講演予定者には、事前にWeb版『木更津市史研究』(仮題)への講演内容・記録等の掲載許可手続きを行う。)

実施日：平成27年7月～10月(予定)

会場：市民会館小ホールまたは市内公民館

内容：講演会 終戦から70年を記念して、④戊辰戦争、⑤日清・日露戦争、⑥第二次世界大戦に関する講演会または座談会を開催する。

題名：④近世編 むかし、木更津に戦争があった(その1)－戊辰戦争と木更津－(仮題)

※請西藩林忠崇の戊辰戦争時の状況と、新政府軍の進行を中心に木更津市史編集事業の中で調査した成果を踏まえて発表する。

依頼者：木更津市史編集委員会副委員長 三浦茂一、同委員会委員 實形裕介ほか(予定)

題名：⑤近現代編 むかし、木更津に戦争があった(その2)－日清・日露戦争下の木更津の暮らし－(仮題)

※古写真や、市内に残る顕彰碑などを紹介しながら、戦争がひとびとの暮らしにどのような影響を及ぼしたかを紹介する。

依頼者：木更津市史編集委員会副委員長 三浦茂一、前『図説 木更津のあゆみ』執筆者ほか(予定)

題名：⑥近現代編 むかし、木更津に戦争があった(その3)－第二次世界大戦下の木更津の暮らし－(仮題)

※市民の暮らしぶりや、学校での生徒たちの様子、戦後に進駐軍が木更津へ進駐してからの様子を木更津市史編集事業の中で調査した成果を踏まえて発表する。

依頼者：木更津市史編集事業調査員、前『図説 木更津のあゆみ』執筆者ほか(予定)

この他の実施予定

内 容：講演会、フィールド散策

会 場：市民会館小ホールまたは市内公民館（現地散策を含む）

題 名：⑦自然編 木更津の成り立ちと生き物の移り変わり（仮題）

※恐竜の生きた時代から、人類が木更津の地に訪れるまでの間の様子を、地質、生物から読み解く。

依 頼 者：木更津市史編集事業調査員、千葉県立中央博物館職員ほか（予定）

題 名：⑧自然編 谷津田・里山の四季（仮題）

※富来田のいっせんぼくや、矢那・富来田などに残る植物や動物について紹介し、木更津の種の多様性や自然の豊かさを発表し、フィールド散策も行う。

依 頼 者：木更津市史編集委員会副委員長 成田篤彦、千葉県立中央博物館職員ほか（予定）

題 名：⑨自然・近現代編 災害と木更津－関東大震災と東日本大震災の被害－（仮題）

※2つの大きな震災による被害状況について、木更津市史編集事業の中で調査した成果や、市役所に残る災害記録などを踏まえて発表する。また、現在の防災対策についても呼びかける。

依 頼 者：木更津市防災対策担当、千葉県立中央博物館職員、前『図説 木更津のあゆみ』執筆者ほか（予定）

題 名：⑩民俗編 伝説豊かなまち 木更津（仮題）

※市内に残る伝説の内容と生まれた理由について発表する。

依 頼 者：前『図説 木更津のあゆみ』執筆者ほか（予定）

題 名：⑪民俗編 木更津の民間信仰と芸能(仮題)

※木更津の民間信仰と伝統芸能について紹介し、一部の芸能の実演を行い、木更津に残る民間信仰や伝統芸能への興味と愛着心を育むとともに、継承者の育成をはかる。

依 頼 者：木更津市史編集委員会委員 島立理子、前『図説 木更津のあゆみ』執筆員ほか(予定)

題 名：⑫考古編 日本人はどこから来たのか ―木更津の旧石器・縄文時代―(仮題)

※市内最古の遺跡や縄文時代の貝塚遺跡などを紹介しながら、ひとは木更津のこの地にいつ頃からあらわれたのか。はじめての住人の特徴など、木更津市史編集事業の中で調査した成果や、最近の日本人像に関する研究成果を踏まえて説明する。

依 頼 者：木更津市史編集事業調査員、千葉県教育庁文化財課職員、千葉県立中央博物館職員、郷土博物館金のすず職員ほか(予定)

題 名：⑬考古編 王者の時代 ―馬来田国造の隆盛―

※金鈴塚古墳を含む長須賀古墳群と馬来田国造との関係を説明するとともに、なぜ木更津に巨大な古墳がつくられたのかを、市内に残る古墳や集落遺跡などを当時のアジアや日本国内の情勢も含めながら総合的に発表する。

依 頼 者：木更津市史編集委員会委員 相山林継、郷土博物館金のすず職員ほか(予定)

題 名：⑭考古編 請西いまむかし ―環濠集落と方形周溝墓、古墳時代のムラ―

※土地区画整理で大きく変貌した請西・小浜・中尾地区の弥生～古墳時代の様子を、現在の町名や施設と対比しながら発表する。

依 頼 者：木更津市文化財保護審議会委員、教育部文化課職員ほか(予定)

題 名：⑮古代編 海を渡った東海道 ー木更津の古墳時代、奈良・平安時代ー

※東京湾アクアラインが開通するはるか以前から、千葉県の窓口は東京湾に面した木更津市などの西上総地方であったことを、金鈴塚古墳や大寺廃寺跡などの文化財とともに木更津市史編集事業の中で調査した成果を踏まえて発表する。

依 頼 者：木更津市史編集委員会委員 相山林継、木更津市文化財保護審議会委員、教育部文化課職員ほか(予定)

題 名：⑯古代編 律令国家と望陀・畔蒜郡の成立 ー木更津の奈良・平安時代ー

※市内最古の古代寺院である大寺廃寺跡や、郡役所関連遺跡である丹過遺跡などの文化財とともに木更津市史編集事業の中で調査した成果を踏まえて発表する。

依 頼 者：木更津市文化財保護審議会委員、『図説 木更津のあゆみ』前執筆委員ほか(予定)

題 名：⑰中近世編 華ひらく芸術 ー寺社に残る絵画、彫刻からみた木更津の歴史ー(仮題)

※市内の寺社に残る天井画や仏像などの彫刻、あるいは石造物などを紹介しながら、当時の芸術が信仰と深く係っていたことを紹介する。

依 頼 者：木更津市史編集委員会委員 池田忍、木更津市文化財保護審議会委員ほか(予定)

題 名：⑱中世編 木更津みなとと海上交易 その1(仮題)

※2014年に木更津船就航の契機となった大坂冬の陣から400年を迎える木更津港の以前(鎌倉時代～戦国時代)の様子について、特に経済面に視点を置いて実施する。

依 頼 者：木更津市史編集委員会委員 川戸貴史、『図説 木更津のあゆみ』前執筆委員、教育部文化課職員ほか(予定)

題 名：⑱近世編 木更津みなとと海上交易 その2(仮題)

※2014年に木更津船就航の契機となった大坂冬の陣から400年を迎える木更津港の様子について、五代力船や木更津河岸など江戸と木更津を経済面に視点を置いて実施する。

依 頼 者：木更津市史編集委員会委員 實形裕介ほか(予定)

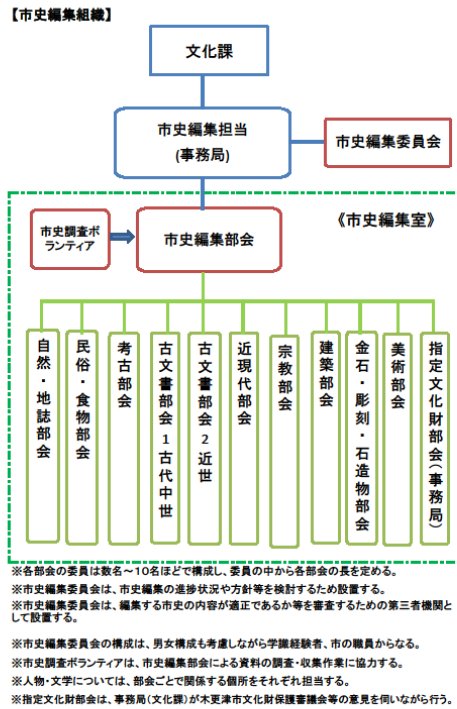
題 名：⑳文化財編 木更津の文化財(仮題)

※市内にある国・県・市指定文化財について紹介し、文化財への興味と愛着心を育めるようにする。

依 頼 者：木更津市文化財保護審議会委員、教育部文化課職員ほか(予定)

議題2 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定

(1) 市史編集組織(案)について



【事務局案】

別表1 『木更津市史』通史編刊行内容

原始・古代編	2編に分けて構成し、第1編は旧石器時代から古墳時代までの日本の成り立ちと、房総半島での木更津の位置付け、第2編は奈良・平安時代を中心に、645(大化元)年の大化の改新前後から1180(治承4)年に源頼朝が挙兵するまでの約500年間の政治・社会・文化などの諸様相について記述します。
中世編	源頼朝が武家政権樹立に動き出した1180(治承4)年から、1590(天正18)年の豊臣秀吉による小田原合戦までを関東の中で木更津の位置づけを意識しながら、鎌倉時代、南北朝・室町時代、戦国時代の3編に分けて構成し、鎌倉幕府と房総武士団のかかわりや、農民、江戸湾の物流と湊町をめぐる争い、真里谷武田氏や戦国大名に成長した里見氏などを記述します。
近世編	徳川家康の関東入部から、江戸時代を中心にして、明治維新の変革期までを、領主支配の諸相、村や町の様子、海浜・山野・河川での人々の営み、漁業や農産加工業、交通や物資の流通、さまざまな身分と人々の日々の暮らしや信仰、文学や美術などについて記述します。また木更津出身者による市内外での活動も含めて記述します。
近現代編	明治、大正、昭和、平成の4編に分けて構成し、政治・産業・経済、社会・文化、教育、市民の暮らし、戦争などのテーマについて記述します。
民俗編	木更津、金田、岩根、中郷、清川、真舟、波岡、鎌足、富来田の旧町村に区分して、地区ごとの特性や地域相互の関連性を明らかにします。また、海や台地、町などの生活の舞台、さらに年中行事や宗教などのテーマを設定して記述します。

(2) 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)について

1. 策定の趣旨

木更津市基本構想(※)の実現を図るため、木更津市史編集の基本構想及び基本方針を策定し、新しい『木更津市史』を編集(以下「新たな市史編集」という。)します。

本市の基本構想の基本理念にもとづき、先人たちから大切に受け継がれてきた木更津ならではの貴重な文化を大切に守り、次世代に継承していくことで、市民がふるさとにより深い誇りと愛着を持てるまちをめざします。

また、歴史・文化・芸術にふれあえる機会の提供等を通じて、市民生活にうおいをもたらしとともに、郷土愛の醸成を図ることを目的としています。

木更津市は、定住・交流人口の増加や企業誘致の推進など、地域の活性化に大きく寄与する東京湾アクアラインをはじめ、館山自動車道、首都圏中央連絡自動車道が結節していることから、都心や羽田空港、成田空港などへのアクセス性に優れた地域特性を備えています。

また、かずさDNA研究所などのバイオ先端技術産業分野の研究開発拠点等が整備されたかずさアカデミアパークや、大学・短期大学・高等専門学校と6つの高等学校など研究・教育環境も充実しています。

その一方で、東京湾最大級の盤洲干潟や豊かな緑が広がる上総丘陵、金の鈴や飾り大刀など国の重要文化財に指定される金鈴塚古墳出土品、木更津港を中心に花開いた江戸前文化など、様々な地域資源を有しています。

こうした木更津市基本構想の実現を図るとともに、地域特性や地域資源など木更津市の魅力をあらわし、後世の市民に誇ることのできる新しい『木更津市史』(以下「『新版』」という。)を編集します。

2. 新たな市史編集の目的

新たな市史編集の目的は以下のとおりとします。

- (1) これまで、戦後の混乱期を乗り越え、市制施行10周年にあたる昭和27年度に『木更津郷土誌』(以下「『郷土誌』」という。)を刊行しました。その後、昭和47年度の市制施行30周年に『木更津市史』(以下「『旧版』」という。)、旧富来田町と合併後の市制施行40周年をむかえた昭和57年度に『木更津市史富来田編』(以下「『富来田編』」という。)を刊行しました。そして、平成24年度には、新たな市史編集の先がけとして、市制施行70周年記念『図説 木更津のあゆみ』(以下「『木更津のあゆみ』」という。)を刊行しております。しかしながら、『郷土誌』『旧版』『富来田編』『木更津のあゆみ』は、自然・文化・歴史をコンパクトにまとめたものであり、全てのデータを網羅したものではありませんでした。

東京湾に面して立地し、古くから海上交通の要衝として栄えてきた木更津市は、国際的な交流都市として、多くの資料が残されています。こうした資料を最新の学問成果に基づいた全国的視点に立った新たな市史編集を進めます。

- (2) 新たな市史編集は、『木更津のあゆみ』の成果と、新たに調査し、収集する資料をもとに本市基本構想の目標年次にあたる平成42年度(西暦2030年)にかけて事業を遂行します。
- (3) 新たな市史編集は、市内の地域的特性を踏まえ、市民の地域的連帯感やふるさと意識、市民意識の高揚を図り、今後のまちづくりにいかします。
- (4) 『新版』を刊行して、本市の自然・伝統文化・歴史を再確認し、自然や文化的・歴史的遺産の散逸・消滅を防ぐとともに、それらを次世代に受け継ぎながら木更津市の発展と文化の向上に寄与します。
- (5) 『新版』を刊行して、豊かな自然を再確認し、環境への関心を高め、自然と共生した潤いある生活にいかします。
- (6) 新たな市史編集をととして、本市の歴史・文化・自然に関する情報を全国へ発信し、魅力ある木更津を紹介することによって、本市が掲げる人口増加を図るための一助とします。

3. 新たな市史編集の方針について

新たな市史編集は、以下の基本的な方針に基づき行うこととします。

- (1) 昭和27・47・57年度及び平成24年度に刊行された『郷土誌』『旧版』『富来田編』及び『木更津のあゆみ』をはじめ、これまでの市内外の諸研究を参考とするとともに、各専門分野における最新の成果を盛り込み、市民が求める視点を重視して改めて編集します。
- (2) 広く市民に親しまれ、まちづくりや生涯学習、学校教育等で活用される『新版』を編集します。
- (3) 各分野の専門家の執筆により、質の高い学問レベルに耐えうる内容を保ちながら、平易な文章で読みやすい市史を編集します。
- (4) 写真や図版を多く取り入れるほか、DVDやデジタルコンテンツなどのニューメディアを活用して市史の編集に取り組み、広く市民が親しみやすかつ利用しやすい市史を編集します。
- (5) 木更津の地域的、経済的、歴史的、文化的な特性に配慮し、地域に生きる人々の視点を踏まえながら編集します。
- (6) 資料は、国内外から広く収集し、有形のものだけでなく、伝承や年中行事など無形のものにも配慮して収集します。
- (7) 編集の過程で調査、収集した資料は、適正に保存、管理するとともに、郷土博物館金のすずにおける展示や学習会、講演会などあらゆる機会を通じて、広く市民に公開して活用に努めます。

4. 『新版』の内容、構成について

- (1) 『新版』は、木更津市の歴史を通史的に記述する「通史編」、基本史料をまとめた「史料編」、木更津の特徴ある自然を記録する「自然・地誌編」で構成し、以下のような内容で編集します。
 - ア. 通史編は5冊(「原始・古代編」「中世編」「近世編」「近現代編」「民俗編」とし、時代区分及び主な内容は別表1のとおりとします。
 - イ. 史料編は10冊(「考古編1」「考古編2」「古代・中世編」「近世編1」「近世編2」「近現代編1」「近現代編2」「金石・彫刻編」「宗教・建築・美術編」「指定文化財編」とします。
 - ウ. 自然・地誌編は本編1冊とし、資料編はCD・DVD等(以下「DVD等」という。)で編集します。
 - エ. 民俗編は市内を合併前の旧町村(木更津、金田、岩根、中郷、清川、真舟、波岡、鎌足、富来田)に区分して地区ごとの報告書を編集し、無形民俗文化財についてはDVD等で編集します。
- (2) その他の刊行物及びニューメディアを活用したものを以下のような内容で編集します。
 - ア. 資料目録・索引は3冊とし、通史編、史料編及び自然・地誌編(以下「本編等」という。)の刊行後に編集します。
 - イ. DVDの作成は民俗編で3編(国の記録選択無形民俗文化財「中島の梵天立」千葉県指定文化財「木更津ばやし」木更津市指定無形民俗文化財「桜井の獅子舞と市内の獅子神楽」、自然・地誌編で3編(「地学・天候」「植物」「動物」とします。

ただし、市史編集委員会においてDVD等の作成の対象を追加する場合は、別に協議します。
 - ウ. デジタルコンテンツとして本編等に掲載した写真や図版を活用したデジタル版『木更津市史』を作成します。
 - エ. 定期刊行物として調査・収集した資料を公表するための『市史研究』を、市史編集事業を実施する年度毎に1冊編集します。
- (3) 本編等の発行部数、有償、無償の別及び価格などについては、発行の都度、別に定めます。

5. 編集期間及び刊行計画について

- (1) 新たな市史編集の期間は、本市基本構想の目標年次にあたる平成42年度(西暦2030年)を目途に実施します。
- (2) 『新版』の刊行計画は、別表2(※※)のとおりとし、変更する場合は、市史編集委員会における議論を十分に踏まえ、資料の収集状況なども勘案して見直しを図ります。

6. 市史編集組織について

- (1) 新たな市史編集にあたっては、『新版』の内容や刊行計画、編集方針などを審議する市史編集委員会を中心に、資料調査及び執筆など具体的に活動する部会を設置して、新たな市史編集を行います。
- (2) 部会は、別図1(議題2(1)資料参照)のとおりとします。また、市史編集委員会は編集する『新版』の内容が適正であるか等を審査するための第三

者機関として位置づけるため、市史編集委員会委員は、部会の委員として兼務することは認めないものとします。

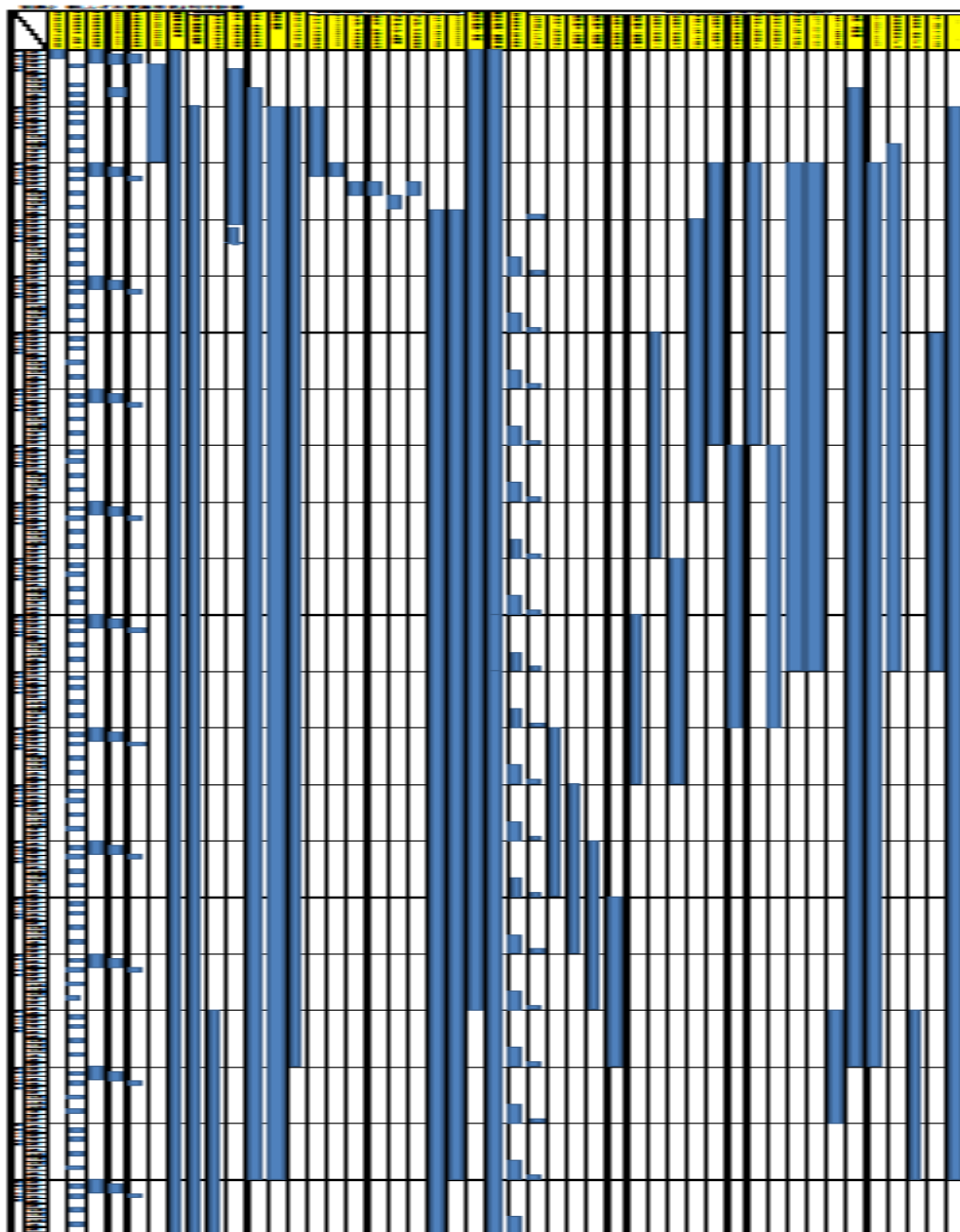
- (3) 郷土研究者など、木更津の自然や歴史に関して深い学識を有する方々から、新たな市史編集についての指導、助言や連携を得られるよう開かれた組織体制を取ることを考慮します。

7. 市民協働（ボランティア）について

新たな市史編集にあたっては、生活する市民の視点からの編集を行うため、以下の方針により市民協働を進めるものとします。

- (1) 市民や地域、大学や市内外の研究機関と協議し、地域の歴史を掘り起こすことに努めます。
- (2) 市民によるボランティアの活用を図るなど、市民参加、参画の機会の拡大に努めます。
- (3) 地域の研究団体や個人、学校などと連携し、編集事業の普及に努めるとともに、次世代に向けた人材育成を図ります。

別表 2『木更津市史』刊行計画(案)



※木更津市基本構想は、現在策定中。